

多言語多文化共生センター【社会貢献部門】

2023 年度実績

2024 年 5 月 13 日

1. 事業の柱

(1) 多文化共生人材育成事業

1. 専門通訳養成講座の開催 — p.2
2. 外部機関と大学との多文化共生に関わる連携事業 — p.2

(2) 言語文化サポーター事業

1. 言語文化サポーターの組織化と活用 — p.3
2. 言語文化サポーター等育成講座の開催 — p.6

(3) 外国につながる子どもたち支援事業

1. 「外国人児童生徒のための JSL 対話型アセスメント (DLA)」の普及および改善 — p.7
2. 「外国につながる子どもたちのための教材」(5 言語) の公開 — p.8
3. 日本語教育や教科学習の充実化にかかわる調査研究および教材開発 — p.9

(4) 世界の知の還元

1. TUFs Cinema — p.14
2. 講演会・セミナー等の開催 — p.16

(5) 多文化共生活動助成事業 — p.19

2. 広報活動

1. ウェブサイト運営 — p.19
2. 名義後援 — p.20
3. その他 — p.20

3. 外部予算の獲得 — p.21

4. 人材バンク構想 — p.21

5. センター運営 (社会貢献部門) — p.22

1.事業の柱

(1) 多文化共生人材育成事業

1. 専門通訳講座の開催

<計画>

多文化共生人材の育成を視野に、異なる言語と文化の間に立ち、コミュニケーションの円滑化にあたるスペシャリストを養成するため、専門通訳養成講座を開講する。司法通訳の育成にあたる専門通訳養成講座に加え、医療通訳の分野でも講座開講の可能性を探る。

<実績>

- ①青山学院大学との連携のもと、2023年度「司法通訳養成講座」を全講座オンラインにて開講した。

〔開講言語：スペイン語(1名)、タイ語(7名)、ベトナム語(11名)〕

- ②東京医科歯科大学との連携のもと、「医療通訳養成講座」を開講することを決定した。

〔開講言語：英語、中国語、ベトナム語を予定〕

〔開講時期：2025年4月を予定〕

2. 外部機関と大学との多文化共生に関わる連携事業

<計画>

多文化共生人材育成等の講座を開催するにあたり、外部機関と連携して実施する。また外部機関が多文化共生人材育成を行う際に、適宜講師の紹介等を行なう。

<実績>

連携機関名	連携内容	備考
東京地方検察庁	2024年2月16日(金)東京地方検察庁主催の研修会(通訳人スキルアップ研修)に協力(内藤稔先生)	2018(平成30)年4月18日付で連携・協力をする旨の覚書を締結
警察庁、警察大学校	○出張講義に協力(青山亨先生) ・2023年5月19日(金)インドネシア情勢について10名参加	相互に講師を派遣するなどの研修の実施
電気通信大学	漢字教材のアプリを共同開発。2023年3月29日にリリースした。2023年12月22日に改修版を再リリースした。なお、このアプリは英語、ベンガル語、フィリピン語、タイ語、ポルトガル語、ベトナム語、スペイン語、および日本語に対応している。	

群馬県大泉町	・12月10日（日）ポルトガル語劇実施 約100名参加	
--------	-----------------------------	--

(2) 言語文化サポーター事業

1. 言語文化サポーターの組織化と活用

<計画>

卒業生等を言語文化サポーターとして登録し、在日外国人支援や国際イベント、翻訳プロジェクト等に紹介することで、人材の活用を図る。活用の柱は次の3つ。

A. 在日外国人支援

社会貢献活動として、次のような活動を行なう。

- ・ 弁護士会との連携により、無料相談会開催時の通訳協力として言語文化サポーターを紹介する。
- ・ 教育委員会等からの依頼に基づき、通訳・翻訳業務に言語文化サポーターを紹介する。また状況に応じて、学内他組織等に協力を仰ぐ。

B. 国際イベントへの参加

スポーツや文化に関わる国際的な催しや国際交流イベント実施のためのスタッフとして言語文化サポーターを紹介する。

C. 翻訳プロジェクトへの協力

外部機関や出版社等より、翻訳プロジェクトへの協力の依頼があった際に言語文化サポーターを紹介する。

<実績>

① 言語文化サポーター登録者（実人数 **549** 名）、言語別延べ人数 **858** 名）※メール未達者削除

	言語（43言語）	2022年度まで	2023年度	※	合計
1	英語	260名	80名	5	335名
2	中国語	60名	11名		71名
3	スペイン語	58名	13名	3	68名
4	フランス語	27名	11名	2	36名
5	ポルトガル語/ブラジル語	26名	8名		34名
6	朝鮮語/韓国語	14名	11名		25名
7	ペルシア語	12名	2名	1	13名
8	タイ語	14名	3名		17名
9	トルコ語	12名	1名		13名
10	インドネシア語	15名	4名		19名
11	ロシア語	28名	10名		38名
12	ベトナム語	7名	5名		12名

13	イタリア語	11 名	6 名		17 名
14	マレー語/マレーシア語	6 名	2 名		8 名
15	ドイツ語	13 名	9 名		22 名
16	台湾語	4 名	0 名		4 名
17	モンゴル語	7 名	1 名		8 名
18	グリー語	4 名	0 名		4 名
19	ヒンディー語	4 名	2 名		6 名
20	ビルマ語	5 名	1 名		6 名
21	タガログ語/フィリピン語/ビサヤ語	10 名	5 名	1	14 名
22	ウズベク語	2 名	2 名		4 名
23	ウイグル語	1 名	0 名		1 名
24	アゼルバイジャン語	1 名	0 名		1 名
25	ウルドゥー語	3 名	1 名		4 名
26	スロベニア語	1 名	0 名		1 名
27	カンボジア語/クメール語	2 名	3 名		5 名
28	ベンガル語	1 名	0 名		1 名
29	チェコ語	2 名	1 名		3 名
30	ラトビア語	1 名	0 名		1 名
31	スワヒリ語	1 名	0 名		1 名
32	セブアノ語	1 名	0 名		1 名
33	ジャワ語	1 名	0 名		1 名
34	タジク語	1 名	0 名		1 名
35	ポーランド語	5 名	2 名		7 名
36	ラオス語	3 名	0 名		3 名
37	ノルウェー語	1 名	1 名		2 名
38	アラビア語	1 名	1 名		2 名
39	日本語	29 名	18 名		47 名
40	ハンガリー語	0 名	1 名		1 名
41	ウクライナ語	0 名	2 名		2 名
42	ネパール語	0 名	1 名		1 名

	合計	654 名	218 名	12 名	860 名
--	----	-------	-------	------	--------------

② 紹介・情報提供 **16** 件、紹介人数延べ **33** 名、活動人数延べ **27** 名

	団体名	活動日	活動の詳細	紹介人数（延べ）	活動人数
1	関東弁護士会連合会	2023 年 5 月 27 日（土） 13：30～16：30	無料相談会の通訳	ポルトガル語 1 名	1
2	東京都立府中西高等学校	2023 年 7 月 21 日（金） 13:00～16:00 2023 年 7 月 24 日（月） 15:30～16:30 2023 年 7 月 26 日（水） 15:30～16:30	保護者会・三者面談での通訳	タガログ 1 名 スペイン語 1 名	2
3	文科部科学省委託事業「日本語能力評価方法の改善のための調査研究」チーム	2023 年 7 月 14 日（金） ～2023 年 7 月 31 日（月）	外国につながる高校生の手書きの母語作文の日本語への翻訳	ポルトガル語 1 名 スペイン語 1 名	1
4	東京都立墨東病院	2023 年 8 月 24 日（土） または 2023 年 8 月 25 日（日） ⇒先方都合キャンセル	病状や治療の説明についての通訳	トルコ語 1 名	0
5	関東弁護士会連合会	2023 年 9 月 1 日（金） 13:00～16:00 2023 年 9 月 8 日（金） 13:00～15:00 ⇒先方都合キャンセル 3 件（英語のみ実施）	無料相談会の通訳	英語 1 名 フランス語 1 名 ポルトガル語 1 名 中国語 1 名	1
6	文京多言語サポートネットワーク	2023 年 9 月 3 日（日） 13:00～17:00	リレー専門家相談会での通訳	英語 2 名	2
7	東京都立南葛飾高等学校	2023 年 9 月 20 日（水） ～2023 年 11 月 29 日（水）	授業内通訳	英語 0 名 （応募者なし）	0

8	第二東京弁護士会	2023年9月25日(月) 12:00～15:30	無料法律相談会の 通訳	英語2名 タガログ語1名 中国語1名	4
9	東京都つながり創生 財団	2023年9月30日(土) 12:30～16:30	無料法律相談会の 通訳	タガログ語2名 ⇒決定後キャンセル1名	1
10	第二東京弁護士会	2023年11月27日 (月) 12:00～15:30	無料法律相談会の 通訳	英語2名 中国語1名 タガログ語1名	4
11	弘前大学	2023年12月12日 (火)	日本語原稿のモンゴ ル語への翻訳	モンゴル1名	1
12	文科部科学省委託 事業「日本語能力評 価方法の改善のため の調査研究」チーム	2023年12月29日 (金)～2024年1月4日 (木)	外国につながる高校 生の手書きの母語作 文の日本語への翻訳	英語1名	1
13	文科部科学省委託 事業「日本語能力評 価方法の改善のため の調査研究」チーム	2024年1月17日(水) ～2024年1月18日 (木)	外国につながる高校 生の手書きの母語作 文の日本語への翻訳	英語1名	1
14	関東弁護士会連合 会	2024年2月2日(金) 13:00～15:00 ⇒先方都合キャンセル1件 (英語のみ実施)	無料法律相談会の 通訳	英語1名 タガログ語1名	1
15	第二東京弁護士会	2024年2月26日(月) 12:00～15:30	無料法律相談会の 通訳	英語2名 中国語1名 タガログ語1名	4
16	東京外国語大学 多言語多文化共生 センター 事業推進 員会事務局	2024年3月29日(金) ～2024年4月3日 (水)	外国につながる生徒 たちが多く通う高校の 新入生に向けての学 校長挨拶文の翻訳	ベトナム語1名 インドネシア語1名 ネパール語1名	3

2. 言語文化サポーター等育成講座の開催

<計画>

言語文化サポーターの活動支援として、通訳スキル、翻訳スキル向上につながる講座を開催する。

<実績>

東京地方検察庁公安部と言語文化サポーター合同研修（通訳人スキルアップ講座）開講し、5名参加。

名称	会場	日時	受講者	内容
言語文化サポーター向け研修 「通訳人スキルアップ研修」	東京地方検察庁	2024年2月16日（金） 13:30-17:00	5名	①検察官の取調べ、刑事手続における通訳人の役割等 講師：東京地方検察庁公安部 小玉副部長 ②司法通訳人に求められる倫理と資質 講師：内藤稔准教授

（3）外国につながる子どもたち支援事業

1. 「外国人児童生徒のための JSL 対話型アセスメント（DLA）」の普及および改善

<計画>

DLA の普及を図るために関連資料を公開するとともに、これらの活用者からのフィードバックを得ながら、日本語を学ぶ子どもを対象にした漢字や算数の教材をウェブサイトで公開し、本アセスメントの改善を試みる。また本学学部・大学院等における DLA 学習授業、教育委員会や小中学校教員等を対象にした DLA 普及にかかわる研修等を多言語で実施する。

<実績>

①2019（令和元）年度より設置された文部科学省「外国人児童生徒等教育アドバイザー」の委嘱により、自治体からの求めに応じて教員研修講師を務めたほか、文科省・自治体の施策立案への助言等の活動を行った。また、自治体からの個別依頼に応じて研修を企画したほか、多言語多文化共生センターに寄せられたメール等での問い合わせに対する回答・アドバイス等を行った。学内での取り組みとしては、7/5 に世界教養プログラム「多文化社会 1」のゲストスピーカーとして DLA について授業を行った。学外で実施した研修は以下の 6 件である。

8/4 浜松市「外国人指導研究部研修会」【対面・104 名】

8/7 厚木市「夏季研修」対面【対面・30 名】

8/21 四街道市「教員研修」（文科省アドバイザーボード）【対面・30 名】

9/12 埼玉県 日本語指導法講座 対面【対面・40 名】

9/15 長野県 日本語指導教員研修 対面【対面・42 名】

10/26 相模原市「教員研修」（文科省アドバイザーボード）【対面・55 名】

②『外国人児童生徒のための JSL 対話型アセスメント（DLA）<聴く>』で使用する聴解用映像の修正版をホームページで引続き公開した。

【A1. えんそく】 <https://www.youtube.com/watch?v=YhgNPqcLquc&feature=youtu.be>

- 【A2. うんどうかい】 <https://www.youtube.com/watch?v=TEjnFJHEp1g&feature=youtu.be>
- 【A3. 工場見学】 https://www.youtube.com/watch?v=C_pMQiOwdd4&feature=youtu.be
- 【B4. えんそくのおしらせ】 <https://www.youtube.com/watch?v=aDsdZhIGC2Y&feature=youtu.be>
- 【B5. トマトのさいばい】 <https://www.youtube.com/watch?v=7UglVUhTicA&feature=youtu.be>
- 【B6. ごみのゆくえ】 <https://www.youtube.com/watch?v=qYfVhHxnTfA&feature=youtu.be>
- 【B7. エネルギー】 <https://www.youtube.com/watch?v=k2YvTGW7kTA&feature=youtu.be>
- 【B8. 地震】 <https://www.youtube.com/watch?v=jBJARVjh1FA&feature=youtu.be>

③ 2016（平成 28）年度に作成した「外国人児童生徒のための JSL 対話型アセスメント（DLA）」の使い方映像マニュアルをホームページで引続き公開した。

【1 『外国人児童生徒のための JSL 対話型アセスメント DLA』概要】

<https://www.youtube.com/watch?v=f8QChp2FdLM&feature=youtu.be>

【2 はじめの一步】 <https://www.youtube.com/watch?v=0fQAv2YWSCU>

【3 話す】 https://www.youtube.com/watch?v=CT1B_ZQFDFw&t=6s

【4 書く】 <https://www.youtube.com/watch?v=4YFMiUW86hY&t=2s>

【5 読む】 <https://www.youtube.com/watch?v=LuKBRft9f0s>

【6 聴く】 <https://www.youtube.com/watch?v=B4DWDLyYHn0&t=35s>

2. 「外国につながる子どもたちのための教材」（5 言語）の公開

<計画>

日本語を学ぶ子どもを対象にした漢字や算数の教材をウェブサイトで公開し、学校での取り出し授業等での活用を図る。またギガスクール構想に対応するため、教材のアプリ化を図る一助とする。

<http://www.tufs.ac.jp/blog/ts/g/cemmer/social.html>

<実績>

- ①「漢字」（6 言語）と「算数」（3 言語）の教材をウェブサイトで公開している。
- ・ポルトガル語版 在日ブラジル人児童のための教材（漢字・算数）
- ・タガログ語／英語版 在日フィリピン人児童のための教材（漢字・算数）
- ・スペイン語版 南米スペイン語圏出身児童のための教材（漢字・算数）
- ・ベトナム語版 ベトナム出身児童のための教材（漢字）
- ・タイ語版 在日タイ語圏児童のための教材（漢字）
- ・ポルトガル語版 在日ブラジル人のための自習用漢字教材
- ②電気通信大学との連携により、英語、ベンガル語、フィリピン語、タイ語、ポルトガル語、ベトナム語、スペイン語、および日本語の 8 言語に対応した漢字教材のアプリ(たふマルリン)を開発し、2023 年 3 月 29 日リリースし 2023 年 12 月 22 日に改修版を再リリースした。

公立小・中・高等学校等における日本語指導が必要な児童生徒の数は、年々増加の一途をたどっており、2023年10月18日に文部科学省が公表した「日本語指導が必要な児童生徒の受入状況等に関する調査（令

和3年度) 』によれば、58,307人(2021年5月1日現在、前年比14%増)とされている。



出典：「日本語指導が必要な児童生徒の受入状況等に関する調査(令和3年度)」



【開発の経緯】

今回のアプリ開発に当たっては、アニメーションや効果音などを活用して、楽しく手軽に学ぶことができる子ども向けの学習環境が必要であると考え、情報通信の分野で高い実績を持つ電気通信大学と連携して、専用アプリの開発に取り組んだ。開発は、電気通信大学発のベンチャー企業である株式会社CodeNextが担当し、実際に専用アプリを学校やNPOなどの現場の人たちにモニターとして操作体験してもらい、意見をフィードバックしてもらった。また、本アプリの元となった冊子版の教材では5言語での展開だったが、更に英語版、ベンガル語版が追加された。

【機能】

- ・ 書き順の習得、文字の形からその字の読みや意味を学べるなど、描画と連動する機能
- ・ ドリル型の設問に効果音を加え、クイズ感覚で進められる工夫
- ・ 漢字の読み方を音声で聴くことが可能
- ・ 自分の声や講師の声などを何度でも聴き直すことができるよう録音機能を搭載



3. 日本語教育や教科学習の充実化にかかわる調査研究及び教材開発

＜計画＞ 日本語指導が必要な児童生徒を対象にした日本語教育や教科学習に役立つ調査研究および教材開発に取り組む。

＜実績＞

令和5年度日本語能力評価方法の改善のための調査研究(文部科学省)採択

1) 本業務の趣旨・目標

本事業では、委託要項の委託内容に従って、義務教育段階から高校段階までの外国につながる児童生徒の年齢発達とステージ別の能力記述文(CAN-DOリスト)の妥当性検証および学校での教育実践に活用できる「ことばの教育参照枠」(仮題)の活用方法(資料作成)の提案を目標としている。そこで今年度については、DLAを踏まえた言語能力評価方法の研究として、発達段階に対応した複数の年齢枠およびステージ別言語能力記述文案(CAN-DOリスト)についての量的妥当性の検証に取り組んだ。

量的研究の目的は、能力記述文（CAN-DO リスト）の各年齢枠の垂直尺度化（共通尺度化）である。すなわち記述文の内容が年齢相応か、年齢枠間の難易度の関係性が適切か、ステージ別の記述文の難易度とその順序性に問題がないかという課題を検証し、妥当性のある能力記述文（CAN-DO リスト）を完成させることである。

2) 目標達成状況等把握に向けた具体的な方法

- ・センター内に本事業全体の推進および調査研究の結果・成果物に検討・助言を行う会議の場として、「事業推進委員会」を設置した。
- ・事業推進委員会は、「CAN-DO 作成部門」「CAN-DO 検証部門」「データ解析部門」の3部門を配置し、各部門リーダーおよび各部門メンバーは事業推進委員のメンバーで構成した。
- ・CAN-DO 作成部門については、事業推進委員をリーダーとしたワーキング・グループ（足羽高校 WG、衣台高校 WG、東濃高校 WG、大阪わかば高校 WG、西成高校 WG）を高校別に設置し、各高校関係者と協働しながら取り組んだ。
- ・CAN-DO 検証部門については、研究協力者としてワークショップ・コーディネーター（WSC）を配置し、事業推進委員と協働しながら地域別ワークショップ（WS-B）に取り組んだ。
- ・本事業の専従スタッフとして、2名（特定専門職員及び事務補佐員）を配置した。
- ・事業推進委員のうち、事業を統括する事業推進委員長、各部門のリーダーおよび事務局を担う専従スタッフの計6名をコアメンバーとして、「事業推進ワーキング・グループ（推進 WG）」を設置し、事業進捗を定期的に確認した。
- ・学長を中心に、機関として責任をもって本事業を実施するため、学内の重要事項について連絡・調整を行う総合戦略会議の下に設置する社会連携マネジメントオフィスにおいて、事業の進捗状況を点検した。大学事務局としては、広報・社会連携課が事業に参画し、事務的支援を行うとともに経費執行の適切性等を確保した。

<事業推進委員（38名、氏名・所属等）>

- 1 阿部 新 東京外国語大学 大学院国際日本学研究院 准教授
- 2 小島 祥美 東京外国語大学 世界言語社会教育センター 准教授、多言語多文化共生センター長
- 3 嶋原 耕一 東京外国語大学 世界言語社会教育センター 講師
- 4 武田 千香 東京外国語大学 学長特命補佐／大学院総合国際学研究院 教授
- 5 伊東 祐郎 東京外国語大学 名誉教授／国際教養大学専門職大学院 特任教授
- 6 小林 幸江 東京外国語大学 名誉教授
- 7 伊澤 明香 関西大学 外国語学部 准教授
- 8 榎井 縁 大阪大学 大学院人間科学研究科 特任教授
- 9 小貫 大輔 東海大学 国際学部 教授
- 10 櫻井 千穂 大阪大学 大学院人文学研究科 准教授
- 11 佐野 愛子 立命館大学 文学部 教授
- 12 高橋 清樹 認定 NPO 法人多文化共生教育ネットワークかながわ 事務局長
- 13 ダグラス 昌子 カリフォルニア州立大学ロングビーチ校 名誉教授
- 14 中島 和子 トロント大学 名誉教授
- 15 野口 裕之 名古屋大学 名誉教授
- 16 真嶋 潤子 大阪大学 名誉教授
- 17 松田 真希子 東京都立大学 教授
- 18 三輪 聖 テュービンゲン大学 人文科学部 アジア地域文化研究所・日本学科 専任講師

- 19 礪貝 白日 独立行政法人国際協力機構（JICA）国内事業部外国人材受入支援室 副室長
- 20 澁谷 和朗 独立行政法人国際協力機構（JICA）中国センター 市民参加協力課 課長
- 21 田中 秀樹 神奈川県教育委員会 高校教育課高校教育企画室国際・情報教育グループ 主任主事兼指導担当主事
- 22 大山 聡 神奈川県教育委員会 子ども教育支援課小中学校生徒指導グループ指導主事
- 23 橋本 正司 大阪府教育委員会 教育長
- 24 堀 貴雄 岐阜県教育委員会 教育長
- 25 横溝 亮 横浜市教育委員会 事務局 学校教育企画部 小中学校企画課 指導主事
- 26 土屋 隆史 横浜市立横浜吉田中学校 副校長
- 27 平吹 洋子 豊田市教育委員会 豊田市外国人児童生徒等サポートセンター 教育アドバイザー
- 28 野入 はる香 豊田市立保見中学校 教諭
- 29 小山 幾子 豊田市教育委員会 学校教育課 学校教育課 課長
- 30 榊原 英一郎 西尾市教育委員会 学校教育課指導主事
- 31 大菅 佐妃子 京都市教育委員会 指導部学校指導課副主任指導主事
- 32 小西 三枝 芦屋市教育委員会 教育部 学校教育室 学校支援課 主査
- 33 今川 美幸 兵庫県教育委員会 事務局 人権教育課 主任指導主事兼指導・事業班長
- 34 竹本 俊穂 福井県立足羽高等学校 校長
- 35 杉本 明隆 愛知県立衣台高等学校 校長
- 横井 健 愛知県立衣台高等学校 副校長
- 36 吉田 益穂 岐阜県立東濃高等学校 校長
- 37 大西 俊猛 大阪府立大阪わかば高等学校 校長
- 38 山田 勝治 大阪府立西成高等学校 校長

<ワークショップ・コーディネーター（20名、氏名・所属等）>

- 1 吉田 美穂 弘前大学 大学院教育学研究科教職実践専攻 教授
- 2 内海由美子 山形大学 学士課程基盤教育機構 教授
- 3 河野 俊之 横浜国立大学 教育学部学校教員養成課程国語・日本語教育 教授
- 4 嶽肩 志江 横浜国立大学 教育学部等 非常勤講師
- 5 宮崎 幸江 上智大学短期大学部 英語科 教授
- 6 川口 直巳 愛知教育大学 学校教員養成課程義務教育専攻日本語支援専修 准教授
- 7 菅原 雅枝 愛知教育大学 教育学部 准教授
- 8 西山 幸子 愛知教育大学 人文社会科学系 日本語教育支援センター助手
- 9 各務 眞弓 NPO 法人可児市国際交流協会 事務局長
- 10 近藤 利恵 NPO 法人可児市国際交流協会 事務局長次長
- 11 菊池 寛子 西尾市教育委員会、日本語教育指導アドバイザー
- 12 門脇 薫 摂南大学 国際学部 教授
- 13 和泉元 千春 奈良教育大学 教育連携講座 国際交流留学センター 教授
- 14 米澤 千昌 大阪教育大学 多文化教育系 特任講師
- 15 江口 修三 呉市立白岳小学校 教員
- 16 中石 ゆうこ 県立広島大学 大学教育実践センター／国際交流センター、准教授

- 17 家根橋 伸子 東亜大学 人間科学部国際交流学科 教授
18 立山 愛 多文化こどもネットワークいろは 代表
19 吹原 豊 福岡女子大学 国際文理学部 教授
20 高橋 美奈子 琉球大学 教育学部学校教育教員養成課程 准教授

3) 本業務の実施内容及び成果

本事業の目標に向けて 3 つの部門が中心となって取り組んだ具体的な内容について、研究目標別に以下に示す。

【研究 1】発達段階に対応した年齢枠およびステージ別の能力記述文（CAN-DO リスト）の妥当性検証のための量的研究

- ①「聞く・話す」と「読む」の複数の年齢枠（現段階では「小 1」「小 2-3」「小 4-5」「小 6-中 2」「中 3-高校」の 5 枠を検討）の能力記述文案の整理

本事業の推進委員が関わる JSPS 基盤(B)16H03433、JSPS 基盤(B)21H00538 等の先行研究でこれまでに作成されてきた能力記述文案を整理し、小学 1 年生から高校生までを想定した能力記述文を一つのスケール（CAN-DO リスト）にまとめた。

- ②記述文の妥当性検証用の DLA 動画（「はじめの一步」「話す」「読む」）の撮影・編集

・5 つの年齢枠（「小 1」「小 2-3」「小 4-5」「小 6-中 2」「中 3-高校」）× 6 つのステージで、DLA（「はじめの一步」→「話す」→「読む」）を実施している動画を撮影し、記述文の妥当性検証用に編集した動画を 31 本制作した。なお、1 本の動画は評価が可能な最短の長さとして、20 分前後に編集した。

・撮影にあたっては、兵庫県、大阪府、京都市、豊田市、西尾市、横浜市の各教育委員会所属の事業推進委員が主体となって協力者である児童生徒の選定、その児童生徒および保護者への説明などの準備をすすめ、DLA の実施に熟達している事業推進委員がその児童生徒が通う学校現場へ出向いて撮影を行った。

・撮影にあたっては、当該児童生徒と保護者に承諾を得た上で撮影を行い、児童生徒の顔や名前の呼びかけ等が識別できないよう個人情報の取り扱いには細心の注意を払って編集した。

- ③「聞く・話す」と「読む」の能力記述文（CAN-DO リスト）の妥当性検証のための評価ワークショップ（WS）の実施

・本事業の研究協力者であるワークショップ・コーディネーター（以下、WSC）と事業推進委員が中心となり、全国各地で能力記述文（CAN-DO リスト）を使った DLA 動画の評価ワークショップ（以下、WS）を開催した。多数の参加者が調査の目的と手続きを完全に理解した上で混乱なく評価できるよう、ワークショップの形式でデータ収集を行った。

・WS の実施形態は 2 パターン（WS-A、WS-B）に区分して実施した。

・いずれの WS においても、DLA 動画の児童生徒の個人情報保護のため、WS 参加者からは研究協力に関する承諾書の事前記入を必須とした。また、データの質的向上を目的として、能力記述文（CAN-DO リスト）のチェックは記名式（誰がチェックしたかがわかる状態で）で実施した。

○WS-A について

・垂直尺度化の精度を保証するため、外国につながる児童生徒の言語能力の評価について、公募によりある程度の熟達者を参加者として選抜した。選抜の基準を外国につながる児童生徒への教育・支援、DLA を含む評価の経験とし、推進委員メンバー（10 名）で構成した選考委員会で最終的に参加者を選抜した。

・本学のホームページ等を活用して広く参加者を募った結果、445 名から応募があり、うち 175 名を参加者として

選抜した。だが、自己都合等により3名が参加辞退したことから、最終的には172名の参加となった。

- ・参加者（172名）には上記②を用いてDLA動画31本（5つ年齢枠×6本（ステージ1から6））を視聴してもらい、1つの動画ごとに①で作成した能力記述文（CAN-DOリスト）についてWEB上で「できる or できない」をチェックしてもらった。

- ・2023年10月から2024年3月までの月1回、計6回（1回で1つの年齢枠の6本の動画を視聴し、チェックする。）をオンラインで開催した。

- ・最終的には、172名の参加によって10,320データを収集することができた。これは、当初予定の1.7倍にあたる。

OWS-Bについて

- ・主にWSC（計19名）が中心となって、各地域の実情にあわせた実施形態（WS回数、人数、どのような属性の人が対象となるか）で企画した。

- ・原則として1つの年齢枠のDLA動画セット6本（ステージ1から6）を参加者に視聴してもらいながら、WS-Aと同様の手順で、1つの動画ごとに、①で作成した能力記述文（CAN-DOリスト）についてWEB上で「できる or できない」をチェックしてもらった。これをステージ1から6の6回繰り返した。

- ・対面でもオンラインでも開催可としたことで、また、必ずしも、外国につながる児童生徒の言語能力の評価に熟達している必要はないと参加者を制限しなかったことから、WSCが活動する地域の近隣に在住する外国につながる児童生徒の教育関係者（学校教員、支援者）、研究者、学生など幅広い参加を得ることができた。

- ・最終的には計21か所で実施ができたことから、約500名（3月末まで）の参加によって約6000データを収集することができた。

●暫定分析

- ・2つのWSより収集したデータのうち、WS-Aからの収集データの一部（年齢枠3-5の各ステージのビデオ（18本）それぞれ171名分のデータ）を用いて暫定分析を行った。その結果、本事業で収集したデータはおおむね想定された性質をもったもので、信頼できるデータであり、今後の分析結果に一定の意味があると考えられた。

【研究2】能力記述文（CAN-DOリスト）に基づく評価と教育実践の効果検証のための質的研究

①「書く」の能力記述文（CAN-DOリスト）に基づく高校での評価と教育実践

- ・2022年度に文部科学省の受託事業で作成した高校段階の記述文案を、高校（推進委員会のメンバーである足羽高校、衣台高校、東濃高校、大阪わかば高校、西成高校）で活用して言語能力評価を行いながら、その評価に基づく授業実践に取り組んだ。

- ・生徒の実態把握（評価）→授業計画の立案→授業の実施→見直しを繰り返すことで、有益な実践事例の収集を行った。

②JSL高校社会科教材プラットフォームの作成

大学入学を目指す留学生、都立高校で学ぶJSL（Japanese as a Second Language）生徒にとって、社会科の学習が大きな壁となっている。これは、日本語力の不足とともに、日本に関する基礎知識を欠くことも大きな要因である。そこで、日本で初等・中等教育を受けてこなかった生徒の社会科学習を支援するため、新たな学習指導要領に則した4分野（歴史総合、地理総合、公共、日本史探究）で、やさしい日本語と多言語によるテキスト、予習用シート、ワークシート等の教材を作成し、教育現場での活用を目指すこととした。

JSL生徒の抱える課題は多様であり、全ての生徒に合った形での教材は望むべくもないが、テキストの情報量を絞り、やさしい日本語で単元の概要の理解を助けること、ワークシートに取り組むことを通して知識の定着および日本語

の運用力向上を図ること、文字情報以外にも映像情報などを活用すること、知識を前提としない活動を通して自発的な情報収集を促すこと等に力点を置いて開発を進めている。開発メンバーは、本学教員および本学の多言語多文化共生センター専門員のほか、現職の高校教諭、他大学の社会科教員である。

初めて JSL 生徒を担当し、指導の仕方に悩んでいる教員が、公開された教材から、JSL 生徒にとってどのような支援が必要、もしくは有効であるかのヒントを得て、それぞれの教育現場にあわせた形で活用、もしくはカスタマイズすることをねらって、「プラットフォーム」という名称を用いている。このため、NHK for school を始め、活用できるリソースの紹介も行っていく。なお、近年の IT 技術の発達により機械翻訳の精度も上がってきており、教育現場でそれらを積極的に活用していくことが望ましい。ただし、社会科教科書の日本語記述は機械翻訳に適していないため、やさしい日本語へのリライトを介して英語版を作成した。英語版から他の言語への翻訳の方が精度が高いためである。地図や年表など、教科書からの引用については、著作権料を支払い、2 年間の公開を可能にした。著作権処理ができなかったものについては、イラストを作成するなどして代替した。

多言語多文化共生センターHP からプラットフォームのページにアクセスできるようにし、必要な教材がダウンロードできるように設計した。2024 年 5 月公開を目指して詰めの作業を行っている。

(4) 世界の知の還元

1. TUFS Cinema

<計画>

世界の諸言語による映画等の上映会（「TUFS Cinema」）をトークセッションとともに開催する。

<実績>

14 作品を上映した。

	日時	上映作品	制作国（舞台）	講演者など
1	2023 年 4 月 22 日 (土) 14 : 00～	『ムンナ兄貴とガンディー』 監督：ラージクマール・ヒラニ 2006 年/インド/144 分/ヒンディー語	インド	足立 享祐（東京外国語大学講師）
2	2023 年 5 月 14 日 (日) 14 : 00～	『チエチエ二号の冒険』 監督：門田龍太郎 1976 年/日本/85 分/日本語	日本（ミクロネシアのサタウル島）	門田修（海工房代） 小野林太郎（国立民族学博物館）
3	2023 年 6 月 25 日 (金) 14 : 00～	『地球は自分を誰だと思っているのか？（火になる）』 監督：Elke Marhöfer 2020 年/日本/56 分/日本語	日本	Elke Marhöfer（映像作家・独立アーティスト） 鈴木玲治（京都先端科学大学・教授） 石倉敏明（秋田公立美

				術大学・准教授)
4	2023 年 7 月 1 日(土) 14 : 00～	『にっぽんむすめ』 監督：ニープ 1935 年/ビルマ（現ミャンマー）・ 日本/85 分/ビルマ語・日本語	ビルマ（現ミャンマー）・日本	三井優（脚本家、ミャンマー映画祭実行委員会代表）
5	2023 年 7 月 22 日 （土） 13 : 00～	『神授の花：フェルガナの女性とイスラーム』 監督：イクバル・メリコズイエフ 2021 年/日本・ウズベキスタン/23 分/ウズベク語、タジク語、アラビア 語	日本・ウズベキスタン	和崎聖日（中部大学） アドハム・アシーロフ（ウズベキスタン科学アカデミー歴史研究所） 木村暁（東京外国語大学） 赤堀雅幸（上智大学）
6	2023 年 7 月 23 日 （日） 14 : 00～	『ソロウェディング』 監督：周冠威（キウイ・チョウ） 脚本・編集：Mohammed AlMasri 2023 年／香港／115 分／広 東語	香港	周冠威（キウイ・チョウ）監 督とのオンライン Q&A
7	2023 年 9 月 3 日（日） 14 : 00～	『命の葉』 監督：エブラーヒーム・モフターリー 2017 年／イラン／90 分／ペル シア語	イラン	森島 聡（東京外国語大 学非常勤講師）
8	2023 年 12 月 1（金） 18 : 00～	『遊牧のチャパルタ〜バスク幻の 伝統打楽器奏者オレカ TX の旅 〜』 監督：ラウル・デ・ラ・フエンテ 2006 年／スペイン／86 分／バ スク語	スペイン	萩尾 生（東京外国語大 学教授）、ガリ・オルティゴ ーサ（東京外国語大学非 常勤講師）
9	2023 年 12 月 8 日 （金） 18 : 00～	『ベルチョラリーバスクの即興歌人 〜』 監督：アシエル・アルトゥナ 2006 年／スペイン／90 分／バ スク語、英語	スペイン	アシエル・アルトゥナ（監 督）
10	2023 年	『バスク・ダンス万華鏡』	スペイン	テルモ・エスナル（監督）

	12月15日 (金) 18:00～	監督：テルモ・エスナル 2018年／スペイン／98分／バ スク語（セリフなし）		
11	2023年 12月16日 (土) 14:00～	『神に誓って』 監督：ショエーブ・マンスール 2007年／パキスタン／168分／ ウルドゥー語、英語、パンジャービー 語、アラビア語、パシュトー語	パキスタン	萬宮 健策（東京外国語 大学大学院総合国際学 研究院教授）
12	2023年 12月17日 (日) 13:00～	『いつか、どこかで』 監督：リム・カーワイ 2019年／日本・クロアチア・セルビ ア・モンテネグロ／81分／広東 語・セルビア語・クロアチア語 『どこでもない、ここしかない』 監督：リム・カーワイ 2018年／スロベニア・マケドニア・ マレーシア・日本／90分／スロベ ニア語・マケドニア語	バルカン半島	リム カーワイ（本作品監 督） アデラ ソー（俳優） 鈴木 健太（神田外語大 学講師）
13	2023年 12月23日 (土) 14:00～	『土曜の午後に』 監督：モストファ・サルフル・ファルキ 2019年／Bangladesh・ドイツ／ 86分／ベンガル語・英語	Bangladesh	日下部 尚徳（立教大学 異文化コミュニケーション学 部准教授）
14	2024年 2月18日 (日) 14:00～	『ウォーデン 消えた死刑囚』 監督：ニーマー・ジャヴィディ 2019年／Iran／91分／ペル シア語	Iran	森島 聡（東京外国語大 学非常勤講師）

2. 講演会・セミナー等の開催

<計画>

本学で蓄積された「世界知」を発信する機会として、講演会・セミナー等を不定期で開催し、日本のグローバル化の大きな力となることを目指す。

<実績>

- ①外部からの講師を招き、学生向けに講演会を開催した。（VOLASpecial 計7回、ボラたいむ計4回）

VOLASpecial

日時	場所	内容	講師	参加者
2023 年 4 月 28 日 (金) 16:00-17:30	研究講 義棟 206	「ボランティアって、なんだろう？」	木下理仁 氏 かながわ開発教育センター (K-DEC) 事務局長	10 名
2023 年 5 月 15 日 (月) 12:40-14:10	研究講 義棟 206	「 迫る食料危機！ 持続可能な未来に向けての、新たな取り組み 」	松本靖子 氏 NPO 法人 シェア・マインド	9 名
2023 年 6 月 14 日 (水) 16:00-17:30	Zoom	「ルワンダをみつめて ～わたしたちにできる国際協力・国際貢献活動 」	永遠瑠マリールイズ氏	26 名
2023 年 10 月 20 日 (金) 16 : 00- 17:30	研究講 義棟 206	「ワールドカップと被災地支援～だれにでもできる国際協力」	角田 寛和 氏	10 名
2023 年 11 月 1 日 (水) 16:00-17:30	Zoom	「スーダンの国連で食糧支援に取り組む～平凡な大学生が天職をつかむまで～」	並木 愛 氏 (WFP 国連世界食糧 計画スーダン事務所)	18 名
2023 年 12 月 1 日 (金) 16:00-17:30	研究講 義棟 206	「ロヒンギャ難民問題の今」	中坪 央暁 氏 (AAR Japan)	11 名
2023 年 12 月 6 日 (水) 16:00-17:30	Zoom	「在日ベトナム人への支援について ～〈技能実習生の駆け込み寺〉大恩寺の活動」	ティック・タム・チー 氏 大 恩寺 (ベトナム寺院) 住 職	12 名

ボラたいむ

日時	場所	内容	講師	参加者
2023 年 5 月 25 日 (木) 11:50-12:35	研究講 義棟 206	「 はじめの一步を踏み出してみよう！ ～ウクライナ支援ボランティアの経験から～ 」	学生 2 名 (大学院修士 1 年、国際社会学部 2 年)	14 名
2023 年 6 月 8 日 (木) 11:50-12:35	研究講 義棟 206	「 “おもしろい”ことしてる外大生がちょっとまじめな話をしてみます！」	学生 5 名 (大学院修士 1 年 1 名、国社 3 年 1 名、国社 2 年 2 名、国日 3 年 1 名)	7 名

2023 年 10 月 27 日 (金) 11:50-12:35	研究講 義棟 205	「留学中のボランティア体験報告会 ～ベトナム、モザンビーク、アルゼンチ ン編」	学生 3 名（国社 4 年 3 名）	36 名
2023 年 12 月 14 日 (木) 11:50-12:35	研究講 義棟 205	「留学中のボランティア体験報告会 ～ドイツ、タイ、アイルランド編」	学生 3 名（国社 4 年 2 名、言文 4 年 1 名）	20 名

②以下の多文化共生シンポジウムを開催した。

日時	場所	内容	登壇者/指定発言者/モデレーター	参加者
2024 年 2 月 10 日（土） 14：30-17： 30	研究講義棟 1 階メディアホ ール	「多文化共生をめぐる包摂 と排除の理論 外国籍の 子どもの就学義務化を求 めて」 主催：国際ボランティア学 会第 25 回大会実行委 員会、東京外国語大学 多言語多文化共 生センター	前川 喜平 氏（現代教育行政研究 会代表／元文部科学事務次官） 成島 出 氏（映画監督／2023 年 「ファミリア」） 小島 祥美 氏（東京外国語大学准 教授／国際ボランティア学会第 25 回 大会実行委員長） 伊東 浄江 氏（NPO 法人トルシーダ 代表） 小島 クリッシイ リカ 氏（東京外国語 大学大学院博士後期課程） 小貫 大輔 氏 氏（東海大学教授 ／国際ボランティア学会員）	270 名
2024 年 2 月 10 日（土） 13：00-17： 00	Zoom	「多様性のある職場での 円滑なコミュニケーション実 現を目指して ～グローバル企業の取り組 みからの再考～ 」	荒川 洋平 氏（東京外国語大学／ 国際日本学研究院 教授） 親松 雅代 氏（株式会社メルカリ／ Language Education Team） 森島 聡 氏（株式会社デンソー／技 術開発推進部） 畔柳 智明 氏 （株式会社ファーストリテイリング／社長 室兼情報セキュリティ室）	157 名

(5) 多文化共生活動助成事業

<計画>

本学の教員が異なる文化や社会の相互理解を深める目的で実施する多文化共生活動を支援するために助成を行なう。

<実績>

以下 2 件を採択し助成した。

採択者	採択事業名	活動時期
青山弘之	東京外国語大学主催第 2 回アラビア語朗読コンテスト	2023 年 12 月 9 日 (土)
中山智香子	多文化共生への構造的暴力を考える：「戦争と外大生」を手がかりに	2023 年 11 月 22 日 (水) ～2023 年 11 月 26 日 (日)

2. 広報活動

(1) ウェブサイト運営

<計画>

ウェブサイト運営し、センターに関する基本情報を発信する。また、活動紹介や講座の受講案内などを積極的に発信する。

<実績>

ブログ記事 計 3 件を掲載した

掲載年月日	タイトル
2023 年 11 月 15 日	「文部科学省委託 日本語能力評価方法の改善のための調査研究事業」＜地域別＞外国につながる児童生徒のためのことばの力の評価ワークショップ
2023 年 11 月 15 日	第 7 回多文化社会実践研究フォーラム 「難民・避難民対応から見た多文化社会の課題 ～市民社会において専門職はいかに取り組むか～」
2024 年 1 月 5 日	多文化共生シンポジウム「多文化共生をめぐる包摂と排除の理論 外国籍の子どもの就学義務化を求めて」

（２）名義後援

＜計画＞

他団体が実施する多言語多文化に関するシンポジウム、講演会、イベント等の後援を行なう。

＜実績＞

- ・2023 年 12 月 16 日（土）、12 月 17 日（日）「第 7 回多文化社会実践研究フォーラム「難民・避難民対応から見た多文化社会の課題～市民社会において専門職はいかに取り組むか～」」 共催
- ・2024 年 3 月 29 日（金）～3 月 31 日（日）「仮放免の子どもたちによる絵画・作文展」 協力

（３）その他

＜実績＞

○新聞・雑誌・テレビ等への掲載・出演：

[小島祥美准教授]

- ・2023 年 4 月 12 日 NHK 国際部 NEWSLINE IN DEPTH 「Foreign students in Japan left in limbo by high school exams」
- ・2023 年 4 月 23 日 毎日新聞 「外国籍の子もスマホで楽しく 8 言語対応の漢字アプリ無料公開」
- ・2023 年 4 月 23 日 毎日新聞 「外国からきた子どもたち 進む「就学」把握、対応課題に 外国籍児調査」
- ・2023 年 4 月 30 日 毎日新聞 「Kanji learning app in 8 languages offers fun Japanese lessons for foreign children The Mainichi on social media」
- ・2023 年 4 月 30 日 毎日新聞 「漢字学習、母国語で楽しく 東京外語大、外国ルーツの子向けアプリ開発 計 8 言語、幅広い世代で活用を / 静岡」
- ・2023 年 5 月 9 日 NHK 首都圏局 おはよう日本（関東甲信越） / 首都圏ネットワーク 「「日本語指導で学び支援」
- ・2023 年 5 月 16 日 NHK ラジオセンター N らじ 「不就学 8 0 0 0 人超 どうする？外国人の子どもたち」
- ・2023 年 7 月 15 日 読売新聞 「「高校で友達作りたかった」ウクライナ避難民の 1 5 歳、進学できず…行政の支援なく」
- ・2023 年 9 月 14 日 NHK 名古屋 まるっと！ 東海 NEWS WEB 「【特集】夜間中学に求められる役割は」
- ・2023 年 10 月 5 日 日本経済新聞 「外国ルーツの子の学び、交流の入り口 地域との接点模索」
- ・2023 年 10 月 17 日 読売新聞 「外国人の出産・育児を支える＜下＞ 意思疎通 綿密な保育」
- ・2023 年 10 月 22 日 朝日新聞 「考論・外国籍の子 最大 1 万 1455 人が不就学」
- ・2023 年 10 月 23 日 東京新聞 「廃止予定の横浜翠嵐高校定時制 外国籍生徒の生きる力を養う 0 時限目授業とは？ ノウハウ継承に重い課題」
- ・2023 年 10 月 29 日 朝日新聞デジタル 「ドロップアウトする外国人の生徒 変化起こした研究者と型破り校長」
- 2023 年 11 月 10 日 NHK 名古屋 東海ドまんなか！「ハロー！ネイバーズ あなたと一緒に話したいーネイバーズのそ

の先に」

- ・2023 年 11 月 30 日 東洋経済 ONLINE／週刊東洋経済「日本の外国人学校は子どもの安全を守れない」
- ・2024 年 1 月 24 日 NHK 名古屋 まるっと！ハロー！ネイバース！「【特集】“日本語の壁”超える授業」
- ・2024 年 2 月 4 日 中日新聞ほか「外国人定員枠設定公立高 2 割止まり 24 年入試、対応に地域差」
- ・2024 年 2 月 19 日 毎日新聞「外国ルーツの子にキャリア教育 職業を知り、将来の選択肢増やす」
- ・2024 年 2 月 24 日 中国新聞「広島避難家族 ウクライナ侵攻 2 年 <4> 地域と関係希薄 孤独も」
- ・2024 年 3 月 7 日 NHK 首都圏局 NHK 首都圏ナビ「「外国にルーツ」子ども増え 保育現場は―神奈川県
事例で考える シリーズ保育現場のリアル」
- ・2024 年 3 月 20 日 毎日新聞「ネット出願 言語の壁」
- ・2024 年 3 月 21 日 読売新聞「外国人学生の教育機会確保「家族滞在」で在留、急増…奨学金対象を拡
充」

〔内藤稔准教授〕

- ・2023 年 4 月 14 日 蛭雪時代 5 月号 別冊 学部選びハンドブック「文・人文・外国語・教養学部系統 編 /
本学・本学卒業生 / 卒業後リサーチ 言語文化学部 卒業生（内藤稔ゼミ卒）の活躍」
- ・2023 年 5 月 25 日 Bloomberg「SMBC 裁判、「OK」の解釈で検察と対立―ヒル被告ら幹部」
- ・2023 年 8 月 21 日 通訳翻訳ジャーナル「REPORT 大学院の授業をのぞいてみよう 同時通訳実習のキャンパ
スツアーに参加！/ 大学・大学院の通訳翻訳教育 東京外国語大学大学院「日英通訳・翻訳実践プログラム」

3.外部予算の獲得

<計画>

事業を実施するにあたり、随時プロジェクト公募等を確認し、外部予算による事業実施を目指す。

<実績>

令和 5 年度「日本語能力評価方法の改善のための調査研究」（文部科学省）採択

4.人材バンク構想

<計画>

言語文化サポーターの組織化の最終的な着地点として人材バンクの創立の可能性を探る。

<実績>

登録人数の総計（実数）が 549 名となり、昨年度より約 131 名増えた。言語数は昨年度より 3 言語増（ハン
ガリー語、ウクライナ語、ネパール語）の 43 言語となった。延べ人数は 860 名で、昨年度より 234 名の増となった。

5.センター運営（社会貢献部門）

部門長、副部門長及び部門長が指名した部門員で組織する、多言語多文化共生センター多文化共生社会貢献部門・部門会議を開催して、社会貢献部門の業務を企画、実施及び推進する。

【社会貢献部門会議メンバー】

小島 祥美	部門長
内藤 稔	副部門長
武田 千香	部門員
萩尾 生	部門員
菅長 理恵	部門員
成瀬 智	部門員
三浦 吉永	部門員
今井 昭夫	アドバイザー

<会議開催実績>

・部門会議の開催

第1回	2023年4月25日（火）
第2回	（メール審議） 2023年5月17日（水）～5月19日（金）
第3回	2023年6月28日（水）
第4回	2023年7月26日（水）
第5回	2023年9月27日（水）
第6回	2023年10月25日（水）
第7回	2023年11月29日（水）
第8回	2023年12月20日（水）
第9回	2024年1月31日（水）
第10回	2024年2月28日（水）
第11回	2024年3月27日（水）